

## 第2回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1. 日 時 平成13年3月29日(木)
2. 場 所 奈良県文化会館 集会室A・B
3. 出席者 委 員(敬称略) 池淵周一、澤井健二、木村 優、御勢久右衛門  
近江昌司、荻野芳彦、北口照美、榊原和彦、伊藤章子  
奈良県 土木部次長(技術)、河川課長、 ほか
4. 議 事
  - (1) 河川整備の基本理念・基本方針について
    - 1) 生駒いかるが圏域での住民意見の聴取結果について資料の説明
    - 2) 基本理念・基本方針について資料の説明
      - 各委員から次の事項に関して意見があった
        - ・基本理念の「安全」については転落事故防止や出水時の安全対策についても考慮しておく必要がある。
        - ・「地域に愛される川をめざして」のところで生駒いかるが圏域の特徴が見えてこない。  
→現在は大和川水系全体というイメージで作っている。今後特筆すべきことが有れば載せていきたいと考えている。
        - ・生き物の立場から見ても「うまく川づくりをした」と納得できるような川づくりが必要である。
        - ・地域との関わりのなかで都市計画や街づくりとどう連携するかが大きく影響すると考えられる。  
→現在この圏域では具体的に街づくりと一体的な整備が無いため今後そのような計画ができれば見直していきたい。
        - ・3つの基本理念によりほぼ全部カバーできていると思われる。
    - 3) 河川整備計画の治水対策について説明
      - 各委員から次の事項に関して意見があった
        - ・各区河川の治水対策について代替案比較はされているが、各河川の工事対象区間についての説明は前回済ませたということでよいのか。  
→今回は省かせていただいた。

- ・ 時間雨量の採用について 1 時間雨量がいいのか 3 時間雨量がいいのかといったところは三代川と竜田川、富雄川で異なると思われるがどうか。
- ・ この整備計画で示されている事業の達成目標年次のようなものはどれぐらいに  
おいているのか。
- ・ 情報公開に対応できるよう説明資料についても整理しておく必要がある。
- ・ 目標とする降雨が 1 時間 50mm で良いのかどうか。最近起こっている記録的  
短期の大雨を考えたとき見直しても良いのではないか。
- ・ 流域対策で舗装面積が現在どれぐらいの割合で透水性を使用しているであると  
か、防災調整池がどこにあるとかといったデータの整理が必要ではないか。
- ・ 土地の利用形態が変わっているということも考慮した計画が必要ではないか。
- ・ 治水対策を何年確率といった表現でするためには、何年かに 1 回は洪水になる  
とっているようなものである。その表現を住民に納得してもらう必要がある  
と思う。
- ・ 三代川だけなぜ 3 年確率なのかについて 3 年確率の場合と 10 年確率の場合と  
どちらがうか整理しておく必要がある。
- ・ 3 年確率の改修が終われば 10 年確率で改修するという事かどうか。
- ・ 費用対効果の仕組みと確率年の整備水準を 3 つの川をきちんと説明するように  
整理した方がよい。
- ・ 三代川の代替案としては富雄川への放水路も検討できるのではないか。
- 三代川の 3 年確率の改修ができて富雄川の改修も終われば次のステップとして  
可能性はある。
- ・ 三代川が 3 年確率でなぜ大門川が 50 年確率なのか。非常に不公平感があると  
いう感じがする。

#### 4) 意見集約

- ・ 今後 20 年間の暫定的な治水対策として総合治水対策に取り組むなかで、各部  
局での取り組み等をもう少し資料として整理すべきである。
- ・ 治水対策について説明する際、資料等を使用してわかりやすいプレゼンに努め  
るべきである。
- ・ 生駒いかるが圏域の治水対策について安全度の違いを納得できる形で説明でき  
るように資料を整理すべきである。
- ・ 次回は環境についても議論に入りたい。